

ワン・フォー・オール

グローバルな資金調達のための行動計画 予防接種と持続可能な成長

The ROCKEFELLER FOUNDATION

2020 年 12 月 16 日水曜日、東部標準時午前 12:01 まで営業禁止

序文

歴史には、大胆で型破りなステップを必要とする瞬間があります。私たちは今、そのような瞬間にいます。

今日まで、COVIDは何百万もの人々を殺し、何十億もの人々の命を奪ってきました。パンデミックへの不十分で不公平な対応は、世界を二分する危険性があります。財政と金融の刺激策とワクチンへの早期アクセスを備えた先進国は、今年後半にパンデミックの最悪の事態を乗り越えることを期待できます。一方、財政余地が少なく、ワクチンや将来の治療へのアクセスが少ない開発途上国は、何年もの間パンデミックに陥る可能性があります。

幸いなことに、世界にはこのパンデミックを終息させ、広範で公平で持続可能な世界的な回復を保証する手段とメカニズムがあります。Covid-19を私たちの後ろに置き、最も脆弱な人々と地球自体を保護するために、今、私たちがこれらの措置を講じることが不可欠です。そうしないと、私たち全員が危険にさらされます。現在の予防接種計画とその背後にある資金は、単に私たち全員を保護するには不十分であり、その代わりに、国境のない、未確認のさらに危険な亜種が出現する可能性が高くなります。

この行動計画では、最も差し迫ったニーズ、つまり開発途上国の人口の最大 70% にワクチンを接種して 2022 年末までにパンデミックを阻止するための資金調達戦略に焦点を当てます。このホワイトペーパーでは、これを実現するために国際通貨基金 (IMF) の特別引出権 (SDR) の大規模な発行と再割り当てを活用するための詳細を説明します。

世界の最も裕福な地域に完全にワクチンを接種するだけでは十分ではありません。ワクチンのナショナリズムは近視眼的であり、最終的にはすべての人を悪化させます。結局のところ、ワクチン接種を受けていない国で変異したワクチン耐性変異体は、予防接種を受けている国にすぐに広がる可能性があります。世界的な回復のためには、パンデミックをすべての人に終わらせることが必要です。

しかし、そこにとどまることはできません。Covid-19 は、100 年に 1 回の衝撃を世界の健康、世界の経済の幸福、世界の発展にもたらしました。に沿って ウイルスによって数百万人が死亡したため、何億人もの人々が貧困に追い込まれ、飢餓、不健康、男女平等などとの闘いがさらに逆転しています。

したがって、私たちは、私たちの共有された幸福と安全のために、さらに大きなもの、そして劣らず不可欠なものを求めています.世界のグリーンで公平な回復。

この行動への呼びかけは、Covid-19パンデミックからの完全な世界的回復を実現するための一連の緊急ステップの正しい最初のステップであると考えています。今後数か月で、私たちはこの文書に続き、包括的なワクチン接種計画の運用、多国間開発銀行の可能性を完全に実現し、民間部門を関与させるなどの詳細な計画を追加する予定です。

このレポートを作成するにあたり、さまざまな専門家や機関に感謝します。彼らの名前は、この記事の最後に記載されています。いくつかの好ましいアプローチについては若干の違いがあるかもしれませんが、この瞬間へのグローバルな対応を共有するために、全員が同じレベルのコミットメントと緊急性を共有しています。

世界はCovid-19の大災害に一緒に転落しました.私たちは一緒にそこから立ち直らなければなりません. パンデミックの 2 年目を迎えるにあたり、この行動の呼びかけと今後の計画は、私たちがどのようにそれを実行し、すべての人にとってより持続可能で公平な未来を実現できるかについてのロードマップを提供します。



先へ、

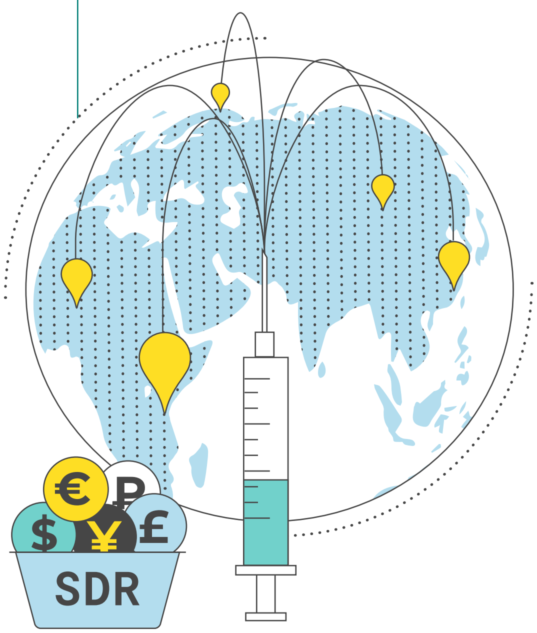


ラジブ・J・シャー博士、
の社長
ロックフェラー財団

概要

1

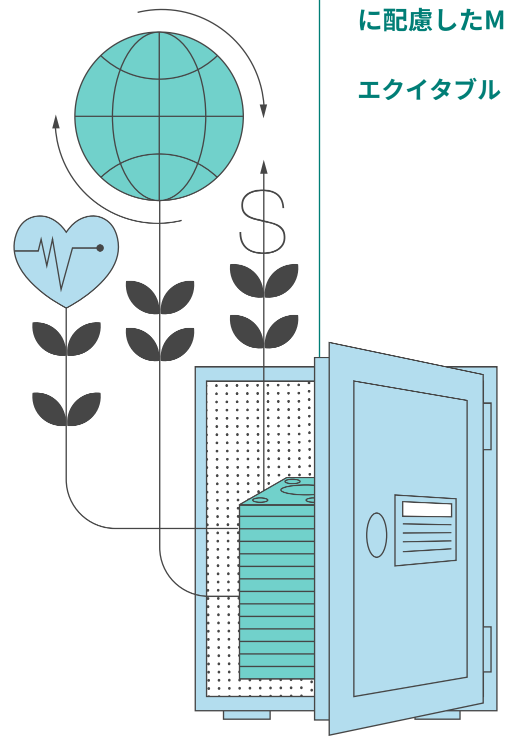
**発行、再割り当て、および
ワクチンへの公平なグローバル アクセスを確保するために SDR に投資する**



2

**完全に解放
貸与力
世界銀行とその他の気候変動に配慮したMDB**

エクイタブル・リカバリー

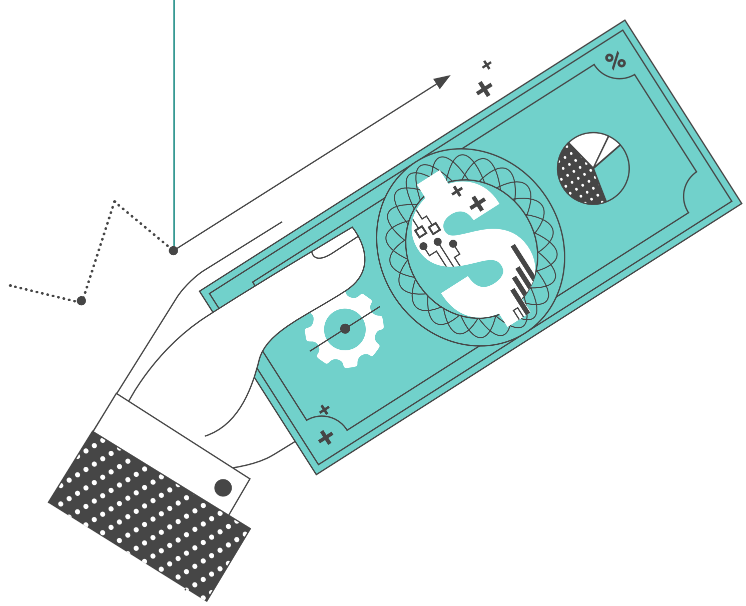


Covid-19 パンデミックの被害はよく知られています。それらを打ち負かし、逆転させるには、再活性化された多国間主義と創造性を即座に爆発させて、資金調達ツールと制度をすぐに運用できるようにする必要があります。2022 年末までに世界のワクチン接種率を最大 70% にするために、私たちは迅速に行動しなければなりません。この提案された計画は、短期的には比較的少ない費用で援助国に課せられ、長期的にはかなりの経済的利益をもたらすでしょう。

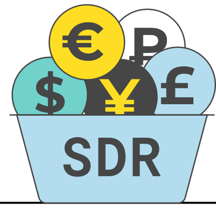
世界中がCovid-19の広がりと痛みを共有したように、私たちは今、パンデミックの終焉と、公正で公平で持続可能で持続的な回復への移行を調整することを共有しなければなりません. ウイルスがすべての国で停止するまで、パンデミックを封じ込め、再構築を完全に開始することはできません。

3

**大規模な資本
プライベートを活用
新しい投資車両**



これを終わらせるために、このアクション プランでは、既存の多国間資金調達アーキテクチャの力を活用して、相互に強化する 3 つの目標を掲げます。



目標1

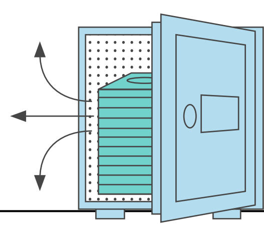
IMFSDR

SDR を発行、再割り当て、活用して、ワクチンへの公平なグローバル アクセスを確保する

- IMFによる6500億ドルの特別引出権の発行が最終承認を受け、可能な限り迅速に分配されるようにする

- 不要で利用可能な SDR を持つ国々に対し、1,000 億ドル以上の「余剰」SDR を途上国に再配分するよう奨励する

- SDR の割り当てによる即時の救済に加えて、再割り当てされた SDR のうち少なくとも 440 億ドルを、2022 年末までに開発途上世界の人口の最大 70% にワクチンを接種するためにワクチンの供給を拡大する緊急の必要性に振り向けます。



目標2

世界銀行と地域開発銀行

世界銀行などの融資力をフルに発揮

気候に優しく公平な回復のための MDB

- 世界銀行をはじめとする自己資本比率の見直しを含む、MDBの可能性を解き放つ包括的な改革パッケージに対するG7/G20内のマーシャルの支持。発展途上国と新興市場。



目標3

InnovativeFinance

新しい投資手段を通じて大規模な民間資本を活用する

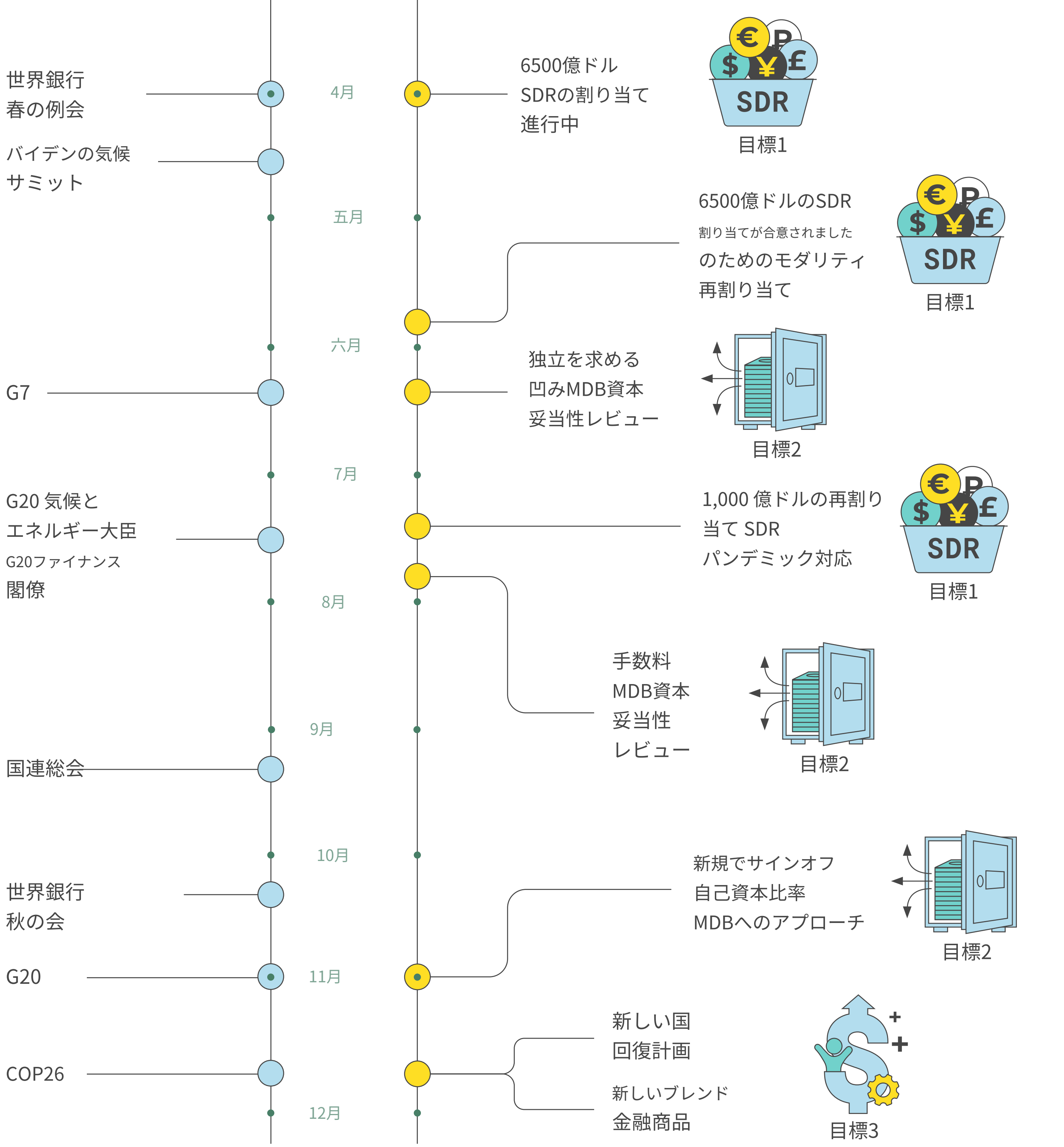
- 民間資本を動員し、MDBと協力して幅広い基盤の持続可能な回復を開始し、新興市場におけるクリーンな成長と開発に資金を提供するための投資手段を確立し、規模を拡大する

この計画の最初の記事では、ウイルスを封じ込めて抑制するための資金を動員するために必要な手順に焦点を当てます。パンデミックへの対応を目標とした早期の SDR の発行と再割り当てのメカニズムは、7 月の G20 閣僚会合と 9 月の国連総会での会合に先立ち、成功への政治的機運を生み出すだろう。その後、進展は、10月の世界銀行会議、その直後の完全なG20、および国連気候変動会議（COP26）に間に合うように気候中立的で公平な回復に向けたMDBと民間セクターのより効率的な関与への道を開くでしょう。 10月。

この計画の将来の分割払いでは、私たちが想定している多国間開発銀行と民間セクターの役割を拡大していきます。私たちは、資金調達がパンデミックを世界的に阻止するための課題の 1 つであることを認識しており、公的および民間のパートナーと協力して、補完する包括的な実施計画を策定することに取り組んでいます。

ここで提案された資金調達ソリューション。

2021 政治カレンダー / 提案された行動



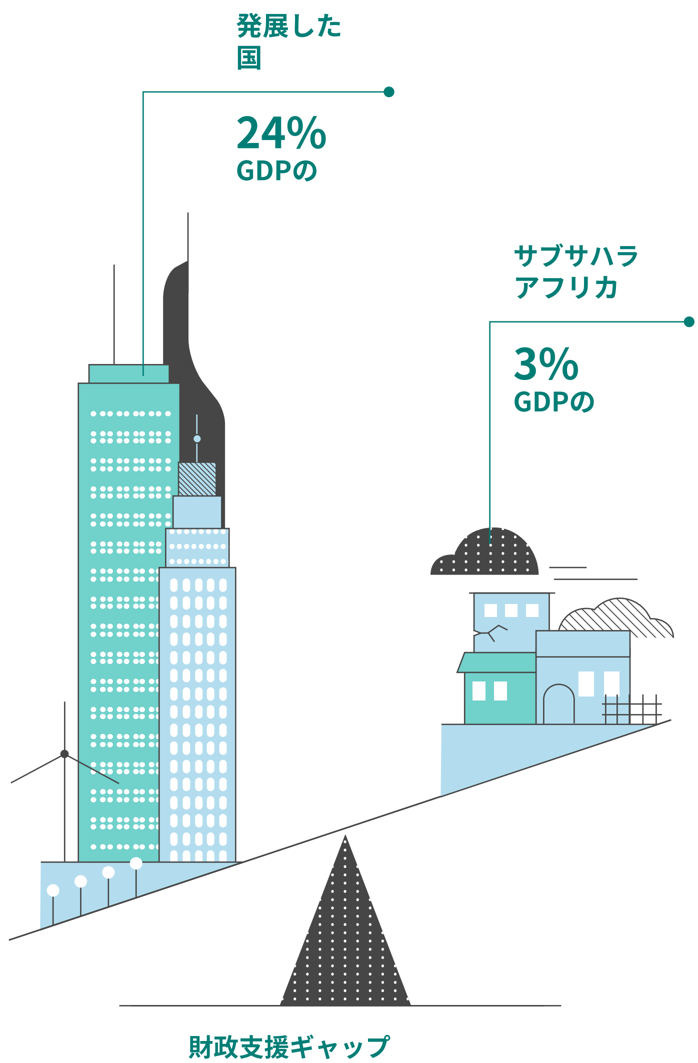
前書き

パンデミックは、世界中で壊滅的な社会的および経済的犠牲をもたらしました。見積もりを取った260 万人が命を落とし、数千万人が失業し、さらに多くの人々が貯金を失いました。IMF は、現在進行中の危機により、今年の終わりまでに推定 11 兆ドルの生産が失われると見積もっています。[1] これらの影響は、人口を保護するためのより豊かな国の資源が不足しているため、開発途上国に特に大きな打撃を与えています。最悪の経済的打撃から。

これに対応して、上位 50 の経済大国は、2020 年に推定 14.6 兆ドルの財政支出を発表し、そのうち 1.9 兆ドルは長期的な経済回復に向けたものでした。[2] 米国だけでも、国内の景気刺激策と救済のために 6 兆ドルの支出を承認しています。対照的に、多くの開発途上国は、差し迫った危機に対応するための社会的セーフティネットと限られた財政的スペースを十分に備えておらず、ましてや将来の投資と成長のために自らを位置付けています。たとえば、サハラ以南のアフリカの新型コロナウイルス関連の財政支援は、先進国のGDPの約24%に対して、GDPの3%に達した.[3]

IMFのクリスタリナ・ゲオルギエワ専務理事の言葉を借りれば、今後10年間で回復の見通しが国や地域によって危険なほどに異なるため、私たちは現在、差し迫った「大きな乖離」の警告を目にしています。[4] 私たちの現在のコースでは、Covid-19の景気後退の痛みは、より裕福な地域よりも貧しい地域ではるかに長く続きます。

その恐怖を反映して、3月下旬のアフリカ財務・計画・経済開発大臣会議は、財政バッファーの枯渇と「新しいコロナウイルスの津波」について警告しました。



ワクチンの流通が停滞する中での感染症」。閣僚は共同声明で、「これは集団の危機であり、集団的かつ協調的な対応が必要だ」と述べた。[5]

この運命の違いは、貧しい人々や弱い立場にある人々が不均衡に影響を受けている国でも起こりました。ワシントン DC では、黒人のアメリカ人が人口の半分未満ですが、Covid-19 による死亡者の 80% 近くを占めています。[6] 3 月中旬の時点で、彼らが受け取ったワクチンは全体の 3 分の 1 未満でした。[7] 同様の格差は世界中で見られ、例えばブラジルでは、アフロ子孫がCovid-19による死亡リスクが全体の人口と比較して150パーセント高い.[8]

これらの問題を悪化させるために、これまでにパンデミックに対応して発表された世界的な投資計画は、気候変動対策に関するパリの約束を適切に統合することができず、支出の増加を確実にする機会を逃したため、排出量を増やすのではなく、排出量を減らす回復を促進します。よりクリーンな形態のエネルギーへの移行を支援するために必要な投資は、世界の回復を刺激することができますが、これまでに発表された総支出のうち、持続可能性を強化すると予想されるのはわずか2.5%です。[9] CO2 排出量は現在、一部の国が回復するにつれて積極的に回復しています。

今は一国主義への縮小のための時ではありません。今後数週間から数か月で作成され、グローバルな持続可能性、連帯、平等、すべての個人の幸福の尊重を中心に構築された新しいアプローチが必要です。広範な経済回復を刺激すると、排出量の削減、貿易の増加、政治的安定の強化という点でポジティブな波及効果が生まれ、すべての国が恩恵を受けます。

しかし、流れを変えるには、まず国内だけでなくあらゆる場所でパンデミックを打ち負かす必要があります。そうしないと、あらゆる場所でパンデミックを長引かせる可能性のある亜種の開発が増加し、先進国経済を支え、国内でパンデミックを打ち負かすためにすでに費やされた数兆ドルが浪費されます。したがって、最も緊急の資金調達の優先事項は、ウイルスをあらゆる場所で阻止することです。

その規模と範囲を考えると、ブレトンウッズ機関 (IMF と世界銀行) は、パンデミックを阻止し、世界的な回復に資金を提供するための、より強力な国際的対応の中心になければなりません。そして、民間資本のプールを構築し、国際援助の未来を再定義します。

世界銀行、IMF、および動員された民間資本を含む地域開発銀行からの資金調達は、回復期間中に年間 4,000 億ドルから 5,000 億ドル増加する必要があります。新興国と開発途上国の持続可能な回復。これは、国家予算への最小限のコストで達成でき、すべての地球市民が恩恵を受ける莫大な地球規模の利益を解き放ちます。

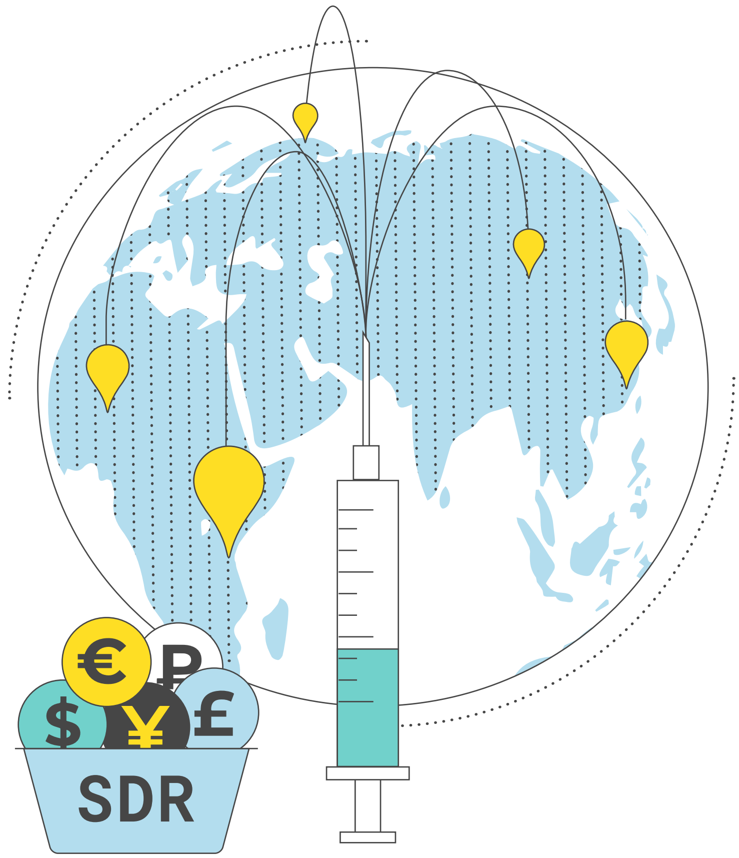
この行動計画では、世界的な回復を促進するために、今後数か月間に世界のリーダーが実行できる実際的な手順を示します。この計画の最初の分割払いでは、新しい SDR の発行に焦点を当て、ウイルスを封じ込めて抑制するために資金を動員するために必要な手順に優先順位を付けます。世界的な回復に関してMDBと民間部門の役割に触れますが、この計画の将来の反復で、これらの関係者のためのより具体的な行動を提示します.

新たな SDR の発行は、即時の救済をもたらし、多国間協力への信頼を再構築し始め、クリーンで公平な回復のための準備を整えるでしょう。実施には、G7 と G20 間のより強力な調整とコミットメント、そしてローマでの G20 と COP26 で最高潮に達する今年の主要な多国間会合の今年のカレンダーをどのように活用できるかについての一貫した計画の策定が必要です。

グラスゴーで。

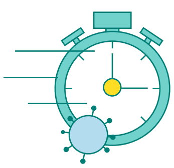
1

ゴール 1
新しいSDRを活用ウイルスを軌道に乗せるための発行



パンデミックを封じ込め、世界的な回復を加速させる最も確実で簡単で明白な方法は、IMF による特別引出権の新たな発行によるものです。SDR は、IMF が 1969 年に作成した国際準備資産であり、自由に使用できる通貨と交換できます。IMF 専務理事は、SDR の新しい割り当てを提案することができます。これは、IMF メンバーの 85% が支持する必要があります。

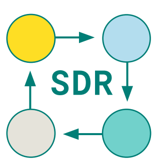
そうすることの利点は明らかです。



パンデミックがまだ猛威を振るっている間、それは迅速に行うことができます



新しい割り当ては、世界の財務省にとって「費用のかからない」ものです[10]



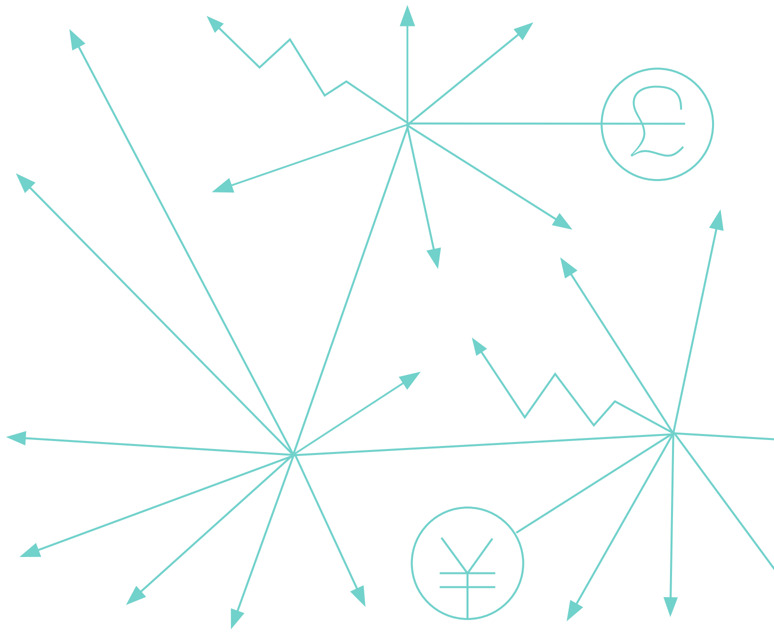
緊急のニーズを満たすために、過剰または不要な SDR を再割り当てできます。

この計画の公表時点で、IMF 理事会は SDR の 6,500 億ドルの割り当てに向けて幅広い支持を表明しています。[11] 正式な提案は 6 月に IMF 理事会に提出される予定です。これは、バランスシートの強化に加えて、パンデミック対応への支出をサポートするために必要な財政余地を各国に提供するための重要な最初のステップです。この動きは、米国財務長官ジャネット・イエレンを含む主要な財務大臣の支持を得ており、彼の SDR 発行の支持には、その展開と利用に関する透明性を高めるという要件が伴います。[12] そこから、発展途上国でのパンデミックへの対応に資金を提供するために、裕福な国から余分な SDR を再割り当てする必要があります。

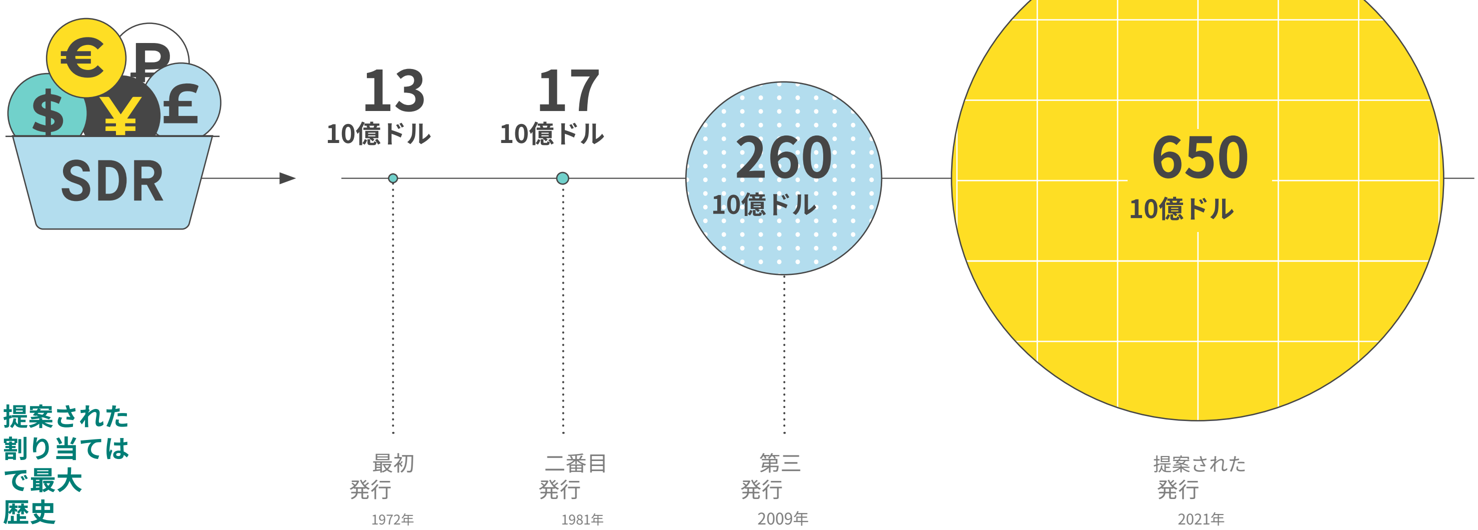
新規SDR発行

IMF が 2008/2009 年に世界経済を支援するために総額 2,600 億ドルの SDR の発行で対応したため、危機の時に SDR を発行する前例があります。前回の金融危機からのぬるぬる回復と、最近の新型コロナウイルス感染症による封鎖による経済活動の劇的な縮小、そして多くの国での債務問題が相まって、IMFは次のことを要求している。

今度はもっと大きく。



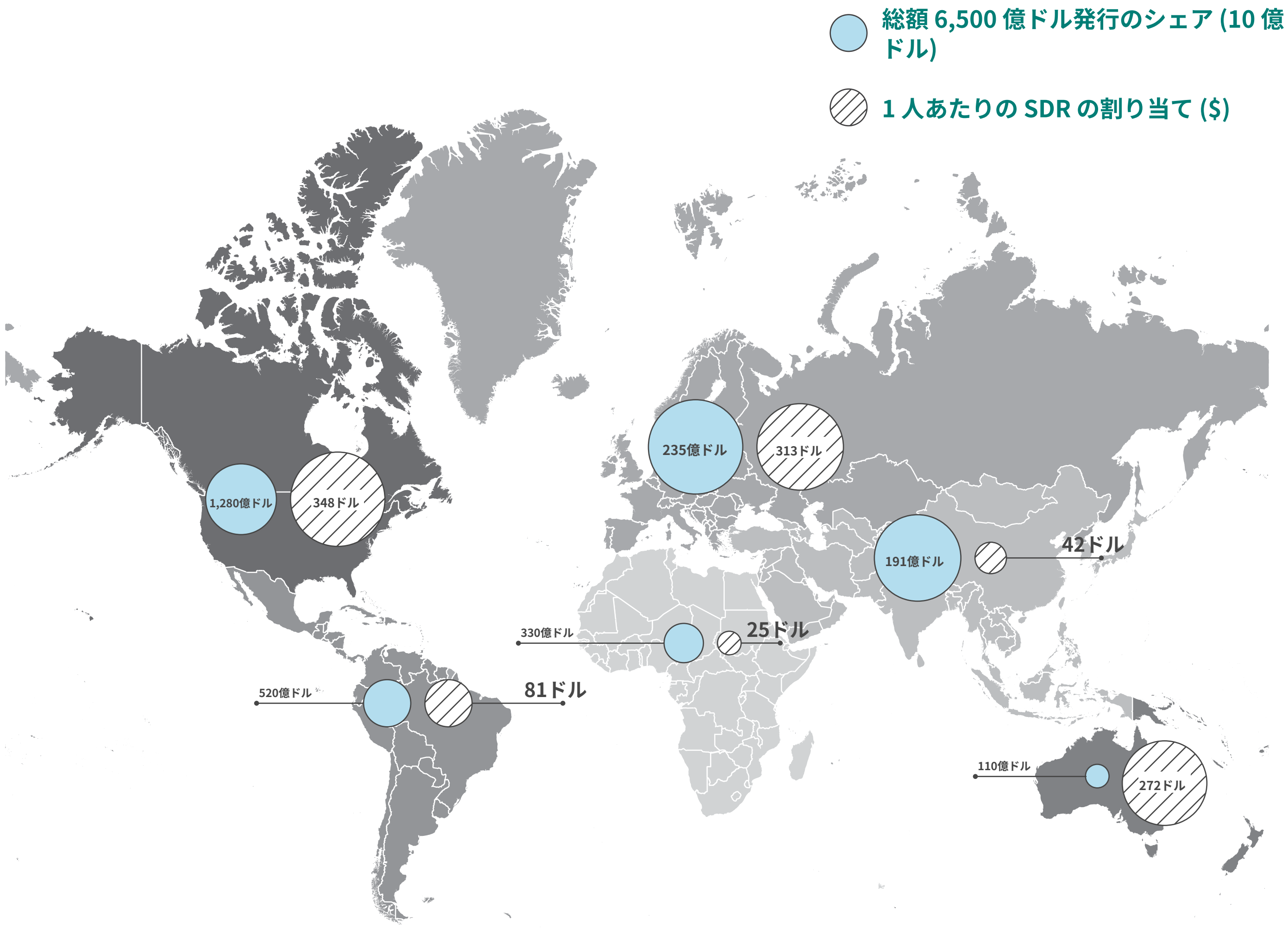
IMF SDR の簡単な歴史



IMF の実質的な発行は、複数の目標に同時に対処します。これは、パンデミックの最悪の時期に国内財政支援を提供する能力がほとんどまたはまったくなかった最貧国に、バランスシートの流動性を即座に注入します。6,500 億ドル相当の SDR を割り当てると、サブサハラ アフリカ地域に自動的にほぼ 230 億ドルがもたらされます。そうすれば、すぐに彼らの準備金が増え、全体的な信用度が向上し、緊急に必要な国内支出のために追加の資金を解放することができます。

SDR の新規発行により大きな利益が生じるにもかかわらず、現在のシステムでは、SDR の一般的な割り当ては、必要性に基づくのではなく、IMF 加盟国の割り当てに比例して配分されなければなりません。このため、最も裕福な国は、新しい SDR の約 67% を受け取ります。[13] 一例を挙げると、英国だけでも、サブサハラ・アフリカ地域全体よりもはるかに多くを受け取ることになります。いわゆる「過剰」な SDR は、より裕福な国のバランスシートに座り、パンデミックへの対応や世界的な回復に拍車をかけることはありません。

地域別SDR配分



ウイルスを広めるためのコスト

パンデミックが猛威を振るい、世界的な組織が世界的なワクチンの展開のための適切な資金を見つけるのに苦労している間、これらの SDR の割り当てが裕福な国のバランスシートに置かれることは意味がありません。すべての国とその市民は、すべての国が高レベルのワクチン接種を達成するまで、Covid-19の脅威にさらされ続けるでしょう。ワクチン接種率が低い一部の国でウイルスが蔓延することを許可すると、変異して変異体が生成される可能性が高くなり、ワクチン接種率の高い国での接種を回避できます。現在の推定によると、世界は完全に保護された OECD 諸国の 4 倍から 6 倍、ワクチン未接種の非 OECD 諸国から新しい亜種を取得する可能性が高いという。

は　世界は文字通り無視する余裕がない

発展途上国におけるワクチンへのアクセスの問題。このような世界的な再発のコストは莫大なものになるだろう. 全米経済研究所の最近の調査によると、ウイルスを世界的に根絶しなかった場合の経済的コストは、貧しい国だけに限ったものではないことが示されています。「2021年のパンデミックの経済的コストの最大49%は、先進国が自国で普遍的なワクチン接種を達成したとしても、先進国が負担するだろう」と報告書は述べている.[14] これは、RAND Corporation の調査によって裏付けられており、米国は最終的に、世界的な Covid-19 ワクチンの供給に投資する 1 ドルあたり 4.8 ドルを節約できることがわかりました。[15]

パンデミック資金のギャップを埋める

世界は広範な世界規模のワクチン接種プログラムに向けて前進していますが、生命を保護し、より広範な回復努力を強化するために必要なワクチン接種率を確実に達成するためには、まだ多くの作業が必要です。まず、2022 年末までにパンデミックを終息させるための包括的な国別計画を策定する必要があります。これには、アフリカ連合やその他の機関が二国間で線量を調達するための継続的な取り組みに加えて、Covid-19 ツールアクセラレータ (ACT-A) の作業を考慮する必要があります。[16]国は、人口にワクチンを接種するための追加の資金を必要としています。これには、追加のコミュニティ ヘルス ワーカー、トレーニング、データ収集、および広範な人口に到達できるワクチン接種サイトの設置に関連する費用が含まれます。

ACT-Accelerator と COVAX の現在の計画では、2021 年末までに 20 億回以上のワクチンを配布し、ワクチン接種率をわずか 20% にすることを求めています。ACT-Accelerator イニシアチブの 4 つの柱すべてを含め、ワクチン接種率 20% というこの目標には、約 340 億ドルの費用がかかると予想されています。 221億ドル。MDB は、世界銀行からの 120 億ドルを含む独自のワクチン接種の割り当ても提供しています。

世界は、2022 年末までに低中所得国で最大 70% の予防接種を達成するという目標を掲げて、より高い目標を達成する必要があります。 440億ドル、考慮

ワクチンの費用と配布。

柱ごとのACT-A資金ギャップ

